

平成16年度病害虫発生予察 予報第7号

平成16年10月15日
長崎県病害虫防除所長

【気象（平成16年10月8日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わりますが、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は平年並、降水量、日照時間も平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並が高く、2週目、3～4週目はともに平年並でしょう。

要素別確率 単位（％）

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	40	30
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

* 予報対象地域：九州北部地域

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
大豆	ハスモンヨトウ 吸実性カメムシ類	やや少 やや多	やや少 やや多
ばれいしょ	アブラムシ類 ジャガイモガ	並 並	並 並
キャベツ	モンシロチョウ コナガ タマナギンウワバ	やや少 並 やや多	やや少 並 やや多
にんじん	うどんこ病 黒葉枯病	やや少 やや少	やや少 やや少
いちご	うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類	並 やや多 やや多	並 やや多 やや多
野菜・花き類	オオタバコガ、ハスモンヨトウ (注意報第8号)	多	多
農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
かんきつ	青かび病、緑かび病 ミカンハダニ カメムシ類	並 やや少 やや少	並 やや少 やや少
つつじ	褐斑病	やや少	やや少

【大豆】 ()内は平年値 [以下同じ]

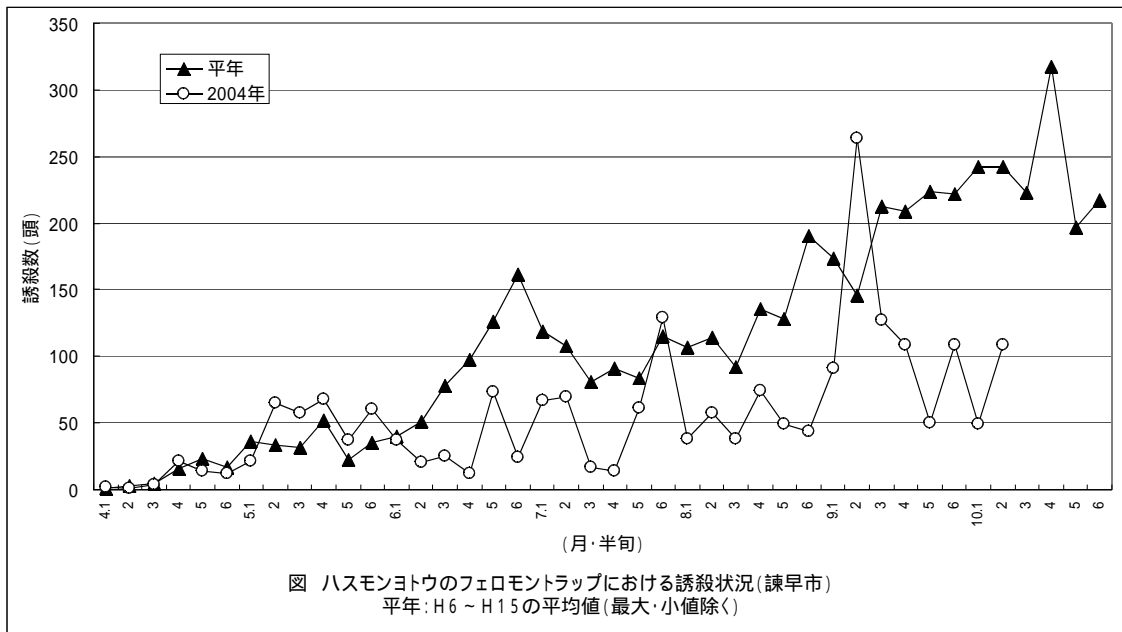
1. ハスモンヨトウ

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

- (1) 10月上旬の巡回調査の結果、幼虫の寄生は認められなかった(寄生株率4.0%、株当たり虫数0.2頭)。
- (2) 10月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は20.0%(6.3%)、株当たり虫数は0.4頭(0.1頭)であった。
- (3) フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は9月3半旬以降減少し、平年より少ない(図)。



2. 吸実性カメムシ類

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

- (1) 10月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は5.0%(4.0%)、株当たり虫数は0.15頭(0.06頭)であった。
- (2) 10月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は46.0%(17.7%)、株当たり虫数は0.7頭(0.3頭)であった。

3) 防除上注意すべき事項

収穫時期となるので薬剤散布にあたっては農薬の使用基準を遵守する。

【ばれいしょ】

1. アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は1.5%(1.0%)、発生圃場数は20筆中4筆であった。

2. ジャガイモガ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査の結果、被害株率0.5%(0.6%)、発生圃場数は20筆中2筆であった。

【キャベツ】 キャベツの()は平成11～15年の5ヶ年の平均値

1. モンシロチョウ

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査の結果、寄生は認められなかった(寄生株率0.2%)。

2. コナガ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は1.3%(2.1%)、発生圃場数は12筆中1筆であった。

3. タマナギンウワバ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は1.3%(0.2%)、発生圃場数は12筆中3筆であった。

【にんじん】 にんじんの()は平成6、7年及び11～15年の7ヶ年の平均値

1. うどんこ病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査の結果、発生は認めなかった(発病株率1.5%)。

2. 黒葉枯病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査の結果、発生は認めなかった(発病株率0.1%)。

【いちご】

1. うどんこ病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査の結果、発生は認めなかった(発病株率0.0%)。

2. アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査の結果、寄生株率 3.6% (1.6%)、発生圃場数は27筆中9筆であった。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特に花のがくに寄生しやすいので、発生を認めたら初期のうちに防除を行う。
- (2) 薬剤のかけむらがあると防除効果が落ちるので、葉裏まで十分に散布する。

3. ハダニ類

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査の結果、寄生株率 4.2% (1.7%)、発生圃場数は27筆中9筆であった。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生を認めたら初期のうちに徹底した防除を行う。
- (2) 薬剤のかけむらがあると防除効果が落ちるので、葉裏まで十分に散布する。
- (3) 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

【野菜・花き類】

オオタバコガ、ハスモンヨトウ

平成16年10月15日付け、病害虫発生予察 注意報第8号による。

【かんきつ】

1. 青かび病、緑かび病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査の結果、発病果率は0.1% (0.1%)、発生圃場数は39筆中2筆であった。

3) 防除上注意すべき事項

収穫時の傷から感染しやすいので、果実にハサミ傷等をつけないように丁寧に扱う。

2. ミカンハダニ

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

- (1) 10月上旬の巡回調査の結果、寄生葉率は2.9% (14.7%)、発生圃場数は39筆中6筆であった。
- (2) 病害虫防除員からの報告によると一部地域(諫早市)で発生がやや多い。

3. カメムシ類

1) 予報内容

発生程度 やや少

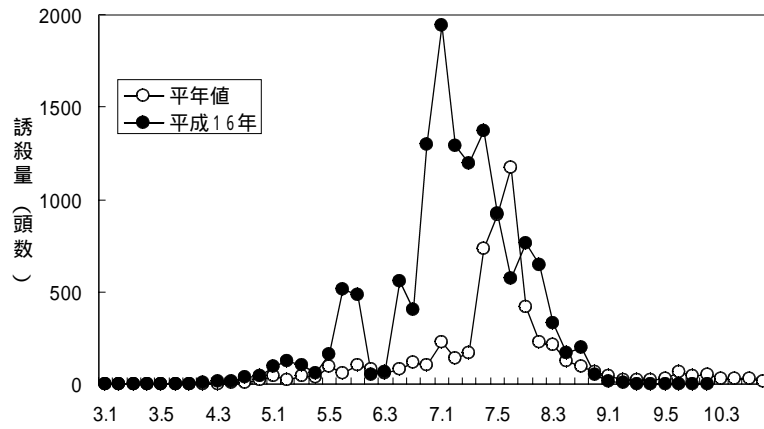
2) 予報の根拠

- (1) フェロモントラップ(諫早市)及び予察灯(西彼町)による誘殺量は平年よりやや少ない(図)。

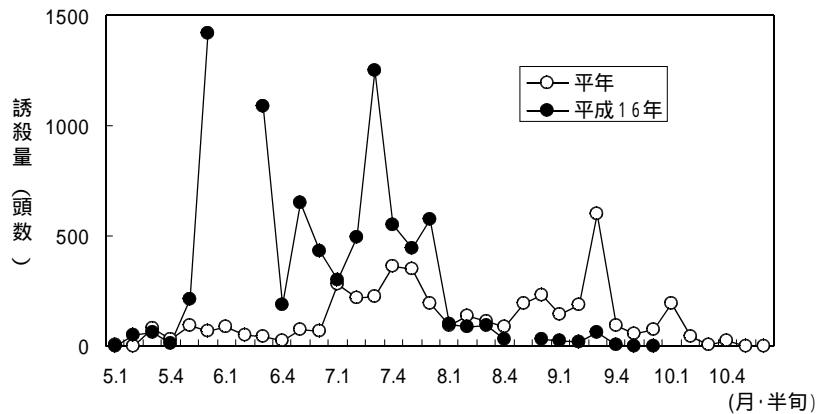
3) 防除上注意すべき事項

- (1) 通常果樹園で見られるチャバネアオカメムシやツヤアオカメムシの発生は少な

- いものの、ミナミトゲヘリカメムシやオオクモヘリカメムシの発生が見られる。
- (2) 園内をこまめに見回り発生に注意する。
 - (3) 発生が認められた場合は薬剤による防除を行う。ただし、薬剤散布に当たっては使用基準を遵守する。



第1図 カメムシ類(チャバネ+ツアア)のフェロモントラップ(黄色コガネコール)による誘殺量(諫早市)(月・半旬)
平年値:平成11~15年の平均



第2図 果樹カメムシ類(チャバネ+ツアア)の予察灯(青)誘殺量(西彼町)
平年値:平成9~15年

【つつじ】

褐斑病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は2.5%(4.4%)、発生圃場数は12筆中8筆であった。